

LMcorsa Race Report

Super GT 2018 Rd,2 Fuji GT



● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATA



● M.NITTA
● Y.NAKAYAMA

5月03日 - 04日 | 天候:雨のち晴れ | コース:富士スピードウェイ | 路面:ドライ



● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATA

First Day Summary

SUPER GT第2戦は霧による視界不良のため

公式練習の時間が大幅に短縮され、予選方式も変更になるなど難しいコンディションとなったがルーキーの宮田莉朋選手が渾身の予選アタックを行ない、6位を獲得する

First Day

ゴールデンウィークの恒例イベントとなっている AUTOBACS SUPER GT シリーズの第2戦「FUJI GT 500km RACE」が富士スピードウェイを舞台に開催された。SUPER GT のシリーズ戦でも随一の観客動員を誇る富士スピードウェイラウンドだけあり、早朝から荒天となったものの多くの観客が訪れていた。

若干18歳のルーキードライバーとなる宮田莉朋選手と数多くのカテゴリーで実績を残してきた経験豊富な吉本大樹選手のコンビで、2018年



シーズンを戦うことになった LM corsa。開幕戦は、想定以上に気温が低くなったことなど、いくつかの要因によって本来のパフォーマンスを発揮することができず、17位で決勝レースを終えることになった。開幕戦から1週間後には鈴鹿サーキットで公式テストが開催され、チームはタイヤテストやマシンのセットアップを進め、今戦に挑むこととなった。

第2戦の富士スピードウェイラウンドは、5月3日(木)、4日(金)の二日間に渡ってスケジュールが組まれていて、3日には公式練習と予選、4日には500kmの決勝レースが実施される。

3日は早朝から前日より降り続く雨が激しく打ち付け、風も強く吹くあいにくのコンディションとなった。

First Day

8時にスタートしたサポートレースの予選はかろうじて実施されたものの、風雨とともに霧が発生してコース一帯を覆うことになった。そのため、8時40分から開催予定だった公式練習は、ディレイするとのアナウンスが流れる。約30分ごとにコースコンディションを確認し、公式練習を実施するかの判断が行なわれたが、公式練習の終了時間となる10時25分まで霧が晴れることなく、公式練習はキャンセルとなった。

天候は、昼前になると一転して青空が覗くようになり、キャンセルとなった公式練習は大幅に短縮することになったが、12時50分から13時20分の30分間に渡って実施。

SYNTIUM LMcorsa RC F GT3には宮田選手が乗り込みコースインする。5周を走行して持ち込みセットを確認するとピットに戻り、再びコースインする。計測9周目に1分38秒

806のベストタイムをマークし、吉本選手にドライバーチェンジ。吉本選手は6周を走行しマシンのコンディションを確認する。わずか30分の公式練習だったが、宮田選手が記録した1分38秒806のタイムで、順位は16位となった。



<予選>

午前中に予定されていた1時間45分の公式練習やサーキットサファリがキャンセルされたことにより、サポートレース予選や決勝レースを含めて多くのプログラムが午後に集中することになった。そのため、予選方式は通常のQ1、Q2によるノックアウト方式から、全車が一齐に走行して順位を決めるタイムアタック方式が採用された。

14時45分から20分間に渡って実施された予選は、GT300クラスにエントリーした29台のマシンがコースオープンとともにタイムアタックを開始。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3には宮田選手が乗り込み、3周に渡ってタイヤに熱を入れた後にアタックラップに入る。計測5周目に1分37秒047をマークし、この時点で計時モニターの2番手に食い込む。翌周にはピットに戻り、タイヤを交換して再びコースイン。予選時間の20分が終了する最終周に、1分36秒944とタイムを更新し6番手を獲得した。

明日の決勝レースは、500kmの長丁場となり、2回のピットストップが必須となる。そのため緻密なピット戦略やタイヤを労ったレース展開など、速さだけでなくチーム力も上位を狙うには求められる。公式練習や予選ではライバル勢と遜色ないペースで走れることが確認できているので、あとは持ち前のチームワークを発揮し表彰台を目指す。

Team Comment



Director : 飯田 章

午前中に予定されていた公式練習がキャンセルになって、マシンのコンディション確認やセットアップに費やす時間が30分しかなく、どうなるかと思いました。それでも、持ち込みの状態が良いことが30分の走行で確認できたので、予選は期待していました。予選では、宮田選手がマシンの性能を最大限に引き出してくれて6位を獲得できました。明日の決勝レースは500kmの長丁場なので何が起こるか分かりませんが、マシンの調子は良いのでさらに上位を狙っていきたいです。



Driver : 吉本 大樹

午前中の公式練習がキャンセルされ、予選方法もノックアウトから1回のアタックに変更になるなど難しい条件でしたが、持ち込みのセットアップが良く久しぶりにポジティブな状況となりました。2週間前の鈴鹿サーキットで行なわれた公式テスト後にチームがしっかりとマシンを仕上げてくれたお陰です。30分に短縮された公式練習では、ユーズドタイヤで6周しか走っていませんが、それでも好感触を得ています。決勝レースではチーム一丸となって、上位を目指します。



Driver : 宮田 莉朋

予選方法は異なりましたが、初めてアタックを任せられて6位を獲得できたことは素直に嬉しいです。公式練習では16番手だったのですがトラフィックに引っ掛からなければ、さらにタイムは更新できていたので、予選に向けては自信を持っていました。開幕戦から鈴鹿サーキットでの公式テストを経て、チームが良いマシンに仕上げてくれたことが、この結果に繋がったと思います。明日の決勝レースは、ロングスティントになるので、ライバル勢の動向に惑わされることなく、チームが考えた戦略を確実に実行して、上位に食い込んでいきたいです。



 **H.YOSHIMOTO**

 **R.MIYATA**

96



● M.NITTA

● Y.NAKAYAMA

First Day Summary

SUPER GT第2戦は、濃霧による視界不良でプログラムが大幅に変更される
K-tunes RC F GT3は、公式練習で9番手となったものの
予選ではアタックラップを妨害されるアクシデントにより16位となる。

First Day

ゴールデンウィークの恒例イベントとなっている
AUTOBACS SUPER GT シリーズの第2戦「FUJI
GT 500km RACE」が富士スピードウェイで開催され
た。SUPER GTのシリーズ戦でも随一の観客動員を
誇る富士スピードウェイラウンドだけあり、早朝から
荒天となったものの多くの観客が訪れていた。

「K-tunes Racing LM corsa」の母体となる岡山ト
ヨペットの地元開催となった開幕戦では、難コンディ
ションの中で予選6位を獲得したものの、決勝レース

ではペースが上がらずに14位でチェッカーを受けることとなった。開幕戦から約1週間後の4月16日と17日に行なわれた鈴鹿サーキットでの公式テストでは、マシンのセットアップを進展させることができ、ドライとウェットコンディションの両方で速さをみせた。そのため、チームは第2戦こそ上位争いを行なえるという期待を持ち富士スピードウェイに入った。

第2戦の富士スピードウェイラウンドは、5月3日(木)、4日(金)の二日間に渡ってスケジュールが組まれていて、3日には公式練習と予選、4日には500kmの決勝レースが実施される。

3日は早朝から前日より降り続く雨が激しく打ち付け、風も強く吹くあいにくのコンディション。8時にスタートしたサポートレースの予選はかろうじて実施されたものの、風雨とともに霧が発生し



てサーキット一帯を覆うことになった。そのため、8時40分から開催予定だった公式練習は、ディレイするとのアナウンスが流れる。約30分ごとにコースコンディションを確認し、公式練習を実施するかの判断が行なわれたが、公式練習の終了時間となる10時25分まで霧が晴れることなく、公式練習はキャンセルされた。



First Day

天候は、昼前になると一転して青空が覗くようになり、キャンセルとなった公式練習は大幅に短縮されたが、12時50分から13時20分の30分間に渡って実施。

K-tunes RC F GT3には、昨年からこのマシンのステアリングを握っている中山雄一選手が乗り込んだ。まずは、ピットアウトとインを繰り返してマシンの確認とセットアップを進める。その後は、わずか30分の時間の中でタイヤ比較などのメニューをこなすタイム計測を行なう。計測8周目に1分38秒610をマークし、公式練習を9番手の順位で終えた。

<予選>

予定されていたプログラムが変更されたことによって、富士スピードウェイラウンドの予選方式は通常のQ1、Q2によるノックアウト方式から、全車が一斉に走行して順位を決めるタイムアタック方式が採用された。

チームは、公式練習後に中山選手のコメントによりマシンに調整を行ない、14時45分から15時5分までの20分間で競われた予選に挑んだ。K-tunes RC F GT3には、再び中山選手が乗り込み、コースオープンとともに走行を開始。3周を掛けてタイヤに熱を入れ計測4周目からアタックを開始し、5周目にベストタイムとなる1分37秒694をマークする。さらにタイム更新を狙うために、ニュータイヤに履き替えアタックを継続。しかし、タイヤに熱が入って最適なアタックタイミングとなった周に、予選アタックを終えていた車両が走行ラインを妨害しタイムを更新ならず。結果として、1分37秒694のタイムで18位となった。

予選のアタックラップを妨げられなければトップ10に入るポテンシャルは確認できていただけに残念な結果だったが、決勝レースは500kmの長丁場になる。経験豊富な二人のドライバーとチーム戦略によって、明日は大幅なジャンプアップを狙う。

Team Comment



Director : 影山 正彦

午前中の公式練習がキャンセルとなったため、短い時間でのコンディション確認となり不安がありました。しかし、公式練習で持ち込みのセットアップが間違っていないことが分かり、自信を持って予選に挑みました。コースイン後のアタックでは想定通りのタイムで、さらにタイム更新を狙っていたのですが、他車にアタックを妨げられてしまいました。マシンのポテンシャルは予選順位よりも上にいると思っているので、長丁場の決勝レースは可能な限り追い上げて、上位に入りたいです。



Driver : 新田 守男

早朝からの降雨と霧によってプログラムが変更されたので、RC F GT3の走行経験を豊富に持っている中山選手に公式練習と予選を走ってもらいました。中山選手のフィードバックで予選前にマシンに調整を加えて予選に挑んだのですが、タイヤとコースコンディションが少し合っていなかったのかもしれませんが、18番手からのスタートなので、明日の決勝レースは追い上げる展開になると思いますが、500kmのロングレースなので何が起きるか分かりません。しっかりと役割を果たして表彰台を目指したいです。



Driver : 中山 雄一

30分間の公式練習ではタイヤとマシンの確認を行ないました。マシンバランスに問題があると感じたので、チームと相談してセットアップを調整しました。予選では、その調整が上手くいって乗りやすい状態になっていたため、タイム更新も期待できました。しかし、アタックラップでスローダウンしていた車両がレコードラインにいたため、タイムアップの機会を逃してしまいました。残念な結果になってしまいましたが、明日の決勝レースは通常よりも200km長いので、追い上げるチャンスはあるはずです。ドライバーとチームが一丸となって好結果を得たいと思います。



ktunes
RACING

 **M.NITTA**

 **Y.NAKAYAMA**